

令和6年度 学校評価自己評価表（最終評価）

三次市立作木中学校

ミッション	(1) 主体的・対話的で深い学びを創造し、確かな学力を身に付けた生徒を育成する。 (2) 作木中学校区の特性を生かした特色ある教育活動を推進することで、ふるさと作木を愛し、地域の将来を担う生徒を育成する。 (3) コミュニティ・スクールとして、学校・地域・家庭が協働し、生徒の成長を支える学校。	ビジョン	「自律」・「協働」・「挑戦」 ～ふるさと作木を愛し、新しい時代をたくましく生きる生徒の育成～ (1) 確かな学力の定着と自律的に学ぶ態度を育てる。 (2) 生徒指導の4つの視点を意識した指導・支援により自己指導能力を育てる。 (3) 基本的な生活習慣の確率と基礎体力の向上を図る。 (4) 小中一貫教育とコミュニティ・スクールを推進し、ふるさと作木を愛し、地域に貢献する生徒を育てる。 (5) 生徒と向き合う時間につなぐ業務改善を推進する。
-------	---	------	--

	中期経営目標	短期経営目標	評価項目	自己評価				学校関係者評価		改善策
				評価データ	達成度	評価	結果の説明	評価	コメント	
知	確かな学力の定着と自律的に学ぶ意欲を育てる。	○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	◆生徒アンケートの肯定的評価80%以上 ①課題について予想や見通しを立てている。 ②調べたことを図、グラフ、表などにまとめている。 ③自分の考えを積極的に伝えている。 ④根拠を明らかにして相手に伝えている。 ⑤授業では、友だちと話し合う等して、自分の考えを深めたり、広げたりしている。 ⑥振り返りは「どこまで分かったか」「もっと考えてみたいこと」などを考えている。	◆生徒アンケートの肯定的評価 ①96% ②73% ③81% ④77% ⑤77% ⑥85% 平均 81%	101%	5	・①③⑥については、80%以上の生徒が肯定的に答えている。 ・②④⑤については、70%以上の生徒が肯定的に答えている。 ・②④⑤は目標値を下回っているが、全体平均は目標値を上回っている。	A	○生徒たちは自主的に勉強に取り組んでいるように思えるが、やはり学力が課題である。 ○生徒のやる気は感じるので、基礎的・基本的な学力を向上させる必要がある。 ○正しく分析、評価できており、また、個々の学力についても、しっかり把握できている ○基礎学力が定着するよう授業改善を行うとともに、家庭での予習・復習の定着が必要である。 ○家庭学習が課題だと把握できる。引き続き取り組んでいただきたい。 ○家庭学習を強化するように保護者への啓発が必要である。 ○学校と保護者がしっかり連携して取り組んでほしい。 ○授業改善と自己調整力の育成に関して、生徒アンケートの肯定的評価の割合が高くなっているのh、日頃の先生方の努力のあらわれだと思う。それが学力検査の成果につながるには時間がかかと思う。粘り強く取組を継続していただきたい。	・生徒たちは、本校が研究している「主体的・対話的で深い学び」について肯定的に臨んでいると考えられる。 ・②④⑤への改善を図る。 ・これまでの取組を継続するとともに、各授業においてペアやグループ等での対話の場を設定し、さらに学びを深めていく。
		○基礎的・基本的な学力の定着	◆三次市学力到達度検査（1・2年）については全国平均以上の生徒の割合、実力テスト（3年）については県平均以上の生徒の割合50%以上	◆5教科×25人＝延べ125教科で全国及び県平均と比べると延べ37教科が平均以上であった。よって、平均以上の割合は29.6%	59%	2	・1月の三次市握力到達度検査（1・2年）、実力テスト（3年）について、教科別×人数で述べ教科数に基づいて、平均と比較した。 ・目標値を大きく下回っている。		・授業改善を行い、主体的で対話的な深い学びをめざす。 ・基礎的基本的な学力の定着に向けた取り組みも引き続き行う。	
		○自己調整力の育成	◆生徒アンケートの肯定的評価60%以上 ①学校の授業の予習をするようにしている。 ②学校の授業の復習をするようにしている。 ③定期試験等、自分で勉強の計画を立てている。 ④「やりなさい」と言われなくても、自分から進んで勉強をしている。 ⑤将来、仕事や生活の中で役に立つと思うから勉強している。 ⑥分からないことはそのままにせず、分かるまで努力している。	◆生徒アンケートの肯定的評価 ①62% ②65% ③73% ④73% ⑤85% ⑥73% 平均 72%	120%	5	・⑤については、80%以上の生徒が肯定的に答えている。 ・③④⑥については、70%以上の生徒が肯定的に答えている。 ・①②については、60%以上の生徒が肯定的に答えている。 ・目標値を上回っている。		・ICT等を利用した授業改善を行うとともに、家庭学習に意識が行くような授業展開も工夫する。 ・自学（自主学習）の充実をはかる。	
徳	生徒指導の4つの視点を意識した指導・支援により自己指導能力を育てる。	○生徒指導・教育相談の充実及び主体的な生徒会活動の推進	◆生徒アンケートの肯定的評価の割合80%以上 ①学校生活は充実している。 ②授業に満足している。 ③自分にはよいところがある。 ④自分ほまわりから認められている。 ⑤自分は、努力すればたいいていのことはできる。 ⑥自分で考えて、その場に応じた発言や行動をしている。 ⑦困りごとがある時、先生や大人に相談できる。	◆生徒アンケートの肯定的評価 ①81% ②88% ③96% ④81% ⑤92% ⑥88% ⑦81% 平均 87%	109%	4	・生徒アンケートの結果では、平均は81%であり、目標をわずかに上回っている。 ・項目⑦は前回の64%から81%になった。困りごとがあっても相談する人がいないと感じている生徒への対応を継続する。 ・項目③は96%と高く、自己の良さについて肯定的に評価している生徒が多い。 ・学校生活にしんどさを感じる生徒もあり、目標値は達成しているが、評価を4とした。	A	○学校規模にも原因があると考えられるが、校内・学校生活に充実感を持ちにくいところが要因にあたると考えられる。 ○授業内容や進め方に工夫が必要である。 ○肯定的評価が高いのは素晴らしい。生徒たちには自信をもって生きてほしい。 ○考える、思うだけでなく、行動できる大人になるよう期待する。 ○困りごとがある時、先生や大人に相談できる生徒が多いのは素晴らしいが、友達に相談したり話し合いで解決できることが大切。（評価項目の見直しが必要である。	・学級活動や生徒会活動、学校行事等の活動を通して、安心・安全に過ごせる風土を醸成する。 ・困りごとがあったときに、生徒が相談しやすい体制をつくる。
		○道徳教育の推進・充実	◆「道徳の時間」における生徒アンケートの肯定的評価の割合80%以上 ①道徳の授業は好きです。 ②道徳では、自分のことを振り返りながら考えている。 ③道徳の授業で勉強したことを、自分の生活に生かしている。	◆生徒アンケートの肯定的評価 ①69% ②85% ③85% 平均 80%	100%	5	・生徒アンケート結果では、肯定的な回答の数値が80%であり、目標を達成することができた。		・引き続き、生徒の実態に応じた道徳の授業を行う。否定的な回答をしている生徒に対して、ワークシート・発問・教材等の工夫を行い、道徳的価値についての思考が深まるようにする。	
体	基本的な生活習慣を身に付け、健やかな体をもつたくましい生徒を育成する。	○基礎体力の向上	◆計画的指導により、新体力テストの県平均及び全国平均以上の項目の割合65%以上	◆県平均及び全国平均値以上の割合 1学年：56.3% 2学年：37.5% 3学年：56.3% ◆新体力テストの県平均及び全国平均以上の項目は50.0%であった。	77%	3	・全体的に県及び全国を下回っている。特に筋持久力、全身持久力、スピード、瞬発力に課題がある。	A	○基本的な生活習慣の確立は保護者への啓発が必要である。 ○何はともあれ健康は大切。生徒の体力低下が心配。今一度、駅伝大会への出場を考えてはどうか。作木中がー丸となって取り組むことで大きな成果が得られると思う。 ○冬季はバス通学の生徒が多い状況であり、特に体力の低下が心配される。日々、続けることができる運動を全員で取り組むことが必要かと感じる。 ○7割の生徒が3点固定できているのは素晴らしい。 ○全体的な課題の把握に努めている。 ○授業に取り組み改善に向けて取り組んでいる。 ○家庭の意識が改善されることが不可欠である。	・自己の新体力テストの分析結果から、生徒一人一人が次回の目標記録と体力を向上させるトレーニングを考え、取り組めるようにする。 ・保健体育科の授業において、各単元に関わる補助運動や体づくり運動を導入する。
		○基本的な生活習慣の確立	◆3点固定の出来ている生徒の割合70%以上 ①家庭学習の開始時刻 ②就寝時刻 ③起床時刻	◆生徒アンケートの肯定的評価 ①69% ②62% ③81% 平均 71%	101%	5	・生徒アンケートの結果では、平均71.0%であり、目標値を達成している。 ・就寝時間、家庭学習の固定ができていない生徒の割合が多い。		・D-life（生活・学習記録ノート）等で自己の生活をふり振り返り、生活習慣の改善につなげる。 ・教育・学習相談を通して、生活・学習習慣について指導・助言を行い、生徒の自己指導能力を育てる。	
信頼される学校	小中一貫教育（さくぎ教育）を更に充実・発展させ、地域とともにある学校づくりを推進する。	○積極的な情報発信	◆保護者の学校評価アンケートの肯定的評価85%以上 ①作木中学校の教育活動については、学校だよりや学級通信などでよく知ることができる。 ②作木中学校の教育に満足している。	◆保護者の学校評価アンケート「作木中学校の教育に満足している」の結果 ①86% ②71% 平均 79%	93%	4	・達成度は93%となり、目標を達成することができなかった。 ・質問①②とも肯定的評価が低く、中間評価より低下している。	A	○ふるさと学習は大切だが、作木に対する思いは生徒それぞれなので、それでよいと思う。 ○生徒たちにはいろいろ経験・体験してほしい。それが次のステップにつながると思う。 ○真夏の大会では、活発な意見が出るので、一つでも実現し、達成感を持つことができるよう、地域が頑張らないといけない。 ○作木のことが好きだといえる生徒を育てるには、まず先生方が作木のことをしっかり知って作木を好きになることが大切だと感じる。 ○情報発信の工夫が必要である。 ○地域学習が大切。今後、改善に向かって動きがあるので期待している。 ○先生方が過重労働にならないように気をつけてほしい。 ○多忙な中でも生徒にしっかりと関わっていただいていることに感謝しています。 ○職員の業務改善をすると生徒と向き合う時間が減少するのではないかと考える。	・質問①は目標値と同じ値となったが、各だよりが定期的に発行されていることが要因として考えられる。続けていく。 ・質問②が目標値を大きく下回った。生徒の学習に向かう姿勢に変化が見えないことが一つの要因と考える。やはり授業改善をさらに進め、学ぶ楽しさ、わかる喜びを生徒の姿から保護者が感じれるように取り組んでいく。
		○作木ふるさと学習の推進・充実	◆生徒アンケートの肯定的評価の割合90%以上 ①自分の住んでいる地域のことが好きです。 ②現在または将来、地域に貢献していきたいという思いを持っている。	◆生徒アンケートの肯定的評価 ①77% ②69% 平均 73%	81%	4	・達成度は81%であり、目標を下回った。 ・質問①②とも肯定的評価が低く、中間評価より低下している。		・質問①②とも肯定的評価が中間より大きく下回っている。作木は好きだが、作木に魅力を感じていない生徒が多いと考えられる。作木ふるさと学習の学習内容を再検討し、自分たちが担い手の一人であるという自覚のある活動を仕組んでいく必要がある。	
		○業務改善の推進	◆職員アンケートの肯定的評価の割合80%以上 ①子供と向き合う時間が確保されている。 ②業務改善を進めることができている。	◆職員アンケートの肯定的評価 ①60% ②50% 平均 55%	69%	3	・達成度は69%と低く、中間評価に比べて下がっている。 ・質問①②とも肯定的評価が下がっている。		・質問①②とも肯定的評価が目標値より大きく下回っており、到達度も低い。職員の自己評価が厳しく出ている面がある。実際は生徒とよく話をしている場面を見かける。評価の基準の見直しが必要である。 ・業務改善についても自己分析が厳しい面がある。評価の基準の見直しが必要である。	

学校自己評価

5	100%以上	目標を十分達成している
4	80%～100%未満	目標を概ね達成している
3	60%～80%未満	目標をやや下回っている
2	40%～60%未満	目標を下回っている
1	40%未満	目標を大幅に下回っている

学校関係者評価

A	自己評価は適正
B	自己評価は適正でない
C	判断できない